救援總動員

全縣に燃えて

×

一關青年團では盛署下震災地救援のため金野勘平、千葉丸楠、熊谷清、菅橋郎、豐村武男、高橋末五郎、藤井末男、黒澤佳男八君が六日午後一時一關驛發大船渡線でさかりに向つた

×

西磐井郡下各小學校では全兒童一名二錢以上、教職員は月給額の百分の一を醵出し九日まで一關小學校で取纏め縣を通して罹災地へ贈ることゝなつた

×

西磐井郡山目村小學校高一阿部正夫、阿部實、佐藤繁雄、菅六藏、遠藤雄四少年は一週間川原田部落夜警して得た一圓を三陸沿岸震災地へ贈つて下さいと六日山目駐在所後藤巡査に屆出たので後藤巡査は大いに感激し手續きを取つた。なほ右四少年は少年消防隊員である

×

一關町の義捐金は四百三十六圓九十五錢、白米三十二俵十六石を募集したので五日午後五時罹災地へ贈つた

×

和賀郡農會でも義捐金を送ることゝなり郡下各町村農會から募集することゝした

×

黒澤尻では第二回義捐金募集を行ひ衣類、寝具、防寒具、食料品等二千五百十五點を遠野警察署宛に五日發送した。なほ郡下各町村でも夫々發送した。鬼柳は白米一石六斗、衣類十八點、笹間白米十俵、衣類若干、横川目白米十石、現金二十圓、更木現金五十圓である

×

縣立黒澤尻中學校では全校生徒職員から百五十三圓を募集し六日發送した

×

黒澤尻町青年團在郷軍人分會消防組自警團青年訓練所等聯合した救援隊二十餘名は七日午前六時十四分發列車で出發した

×

二戸警察署、消防組、在郷軍人會、愛國婦人會、共和婦人會の各種團體が久慈署下罹災民に送る米、味噌、衣類等の寄附募集を五日全町戸々に亘つて行つたが集つた品物は衣類福岡町二千四百四十六點、金田一村九百五十點、石切所村二百五十點外に履物、莚その他都合四千點となつたので五日午後六時北福岡驛發下り貨物列車一輛十五トンに積載して久慈署宛發附した

×

二戸警察署では福岡町役場その他各種團体と協力し久慈署下被害地に送る義捐金募集中であるが六日取敢ず纒つた五百圓を縣會計課宛送金したが第二回募集も引續き行つてゐる

×

二戸郡下各小學校では隣郡久慈警察署下の罹災兒童のために一人一錢以上づつを醵出し義捐金を送ることになり取纏め中であるが六日二戸警察署の手を經て縣會計課に送つた

×

二戸郡小學校長會議は四日福中校で開催された。何日もなれば料亭か旅館において懇談會を開くのだがそれを取止め金十圓を罹災者久慈署下の人達に送つた

×

二戸郡農會では近く町村農會長會議を事務所に開き久慈署下被害地農民に對し農具の一部と各種種等を時期を見て送ることにする

×

岩手病院救護班第一班藤井醫師、濱田事務員、看護婦六名の一行は九戸郡種市、八木、野田を經て下閉伊普代村に巡回任務を終り五日久慈町に引き返し六日盛岡市に向け出發した

×

九戸郡大野村では郡內震災地慰問金を村內から募集その纒まつた金百圓を五日晴山同村書記が携帶久慈警察署に配給方を依頼した

×

盛岡市教淨寺住職善友少年團長松尾正龍師は九戸郡沿岸罹災地慰靈のため五日種市、八木を經て久慈町長源寺を訪問六日以後野田地方その他の殉難者の靈を弔つた

×

釜石工營所では就業勞働者千三百名が時間外勞働を行なひ割増賃銀二日分を震災同情金として醵金することになつた。なほ縣工營所中全く被害のなかつたのは釜石のみであつた

×

氣仙郡赤崎村濱谷採石場では四日同村內罹災者に對し村役場を經て金一千圓也を救恤金として申出でがあつたが同村民は感謝の涙にくれてゐる

×

(東京)三陸地方の慘害に對して六日內務省社會局に『わかもと』本舖長尾欽彌氏から一萬圓、三越から二千圓寄附の申出があつた

×

愛國婦人會岩手支部では盛岡幹事部と協力し六日までに罹災地に百三十梱の衣類一萬餘點を發送し町村委員隊を組織し救援を進めてをり本部から七日午前九時二十五分着で宗像理事來縣する

×

赤十字神奈川縣支部より六日毛布三百枚を縣支部に寄附あり愛婦本部からも毛布百枚、タオル百五十打の慰問品あり救護班は東京、新潟兩府縣日赤支部より派遣された

×

盛岡商業學校職員生徒一同は同校罹災生徒宅に百圓を醵出して六日送金した

×

三陸大震津波の悲報一度傳はるや遠野町は全町擧つて大災害救濟に奮闘して居り恰も遠野町は罹災地への中繼地の觀があり、遠野小學校兒童は教科書、ノート、鉛筆、タオル等の學用必需品を持寄り職員活躍の下に即日三十五箱を荷造りして釜石、大槌、安渡、吉里々々、鵜住居の各校宛急送した、之と同時に高訓生は三日から徹宵四日に至り寝具の買集めに從事し同日午後罹災地へ發送した、公民學校生徒は町內救恤品の整理に盡くし婦人會は會員總動員して取りあへず腰のもの二百五十枚を新調して即日發送、更に愛國婦人會は目下義捐金品を募集中である

×

三陸沿岸大震津波の悲報一度傳はるや遠野町は全町擧つて救濟に奮闘してゐるが中にも各種團体の活動振りは非常に目覺しく其の四五を記せば次の如くである

×

遠野婦人會、創立日尚淺き同會では四日役員會を開き會員全部で婦人用衣類其の他を送附する事に決し會員が新調に忙がしい

×

遠野町役場では震災後直ちに係員を災害地に派遣し其の實情を視察せしめ直ちに町內各區長を召集せしめ金品の寄附を募り其の集金發送には青年團が奉仕大活動をしてゐる

×

遠野小學校では三日職員會議の結果學用品其の他を生徒から募り急送した、尚同校首席訓導三浦榮氏は熱河に活躍してゐる遠野出身兵に三陸沿岸の災害の模樣を知らせるべく本紙二十部を直ちに發送した

×

遠野女子青年團では三日夜協議會を開き團員こぞつて衣類其の他を發送する事に決し直ちに準備に着手してゐる

×

遠野中學校では災害地方から來てゐる生徒に對し直ちに歸宅する事を許可する一方學校當局では救恤方法を考究中

×

遠野女學校では災害地方からの生徒は十餘名であるが女子の事とて萬一を考慮し生徒の歸宅をさしひかへてゐる尚學校當局では義捐方法を協議中

×

遠野町バプテスト教會內家庭會では四日同會幹事を招集災害地義捐方法を協議した結果會員が手分けをして義捐金品を募集する事に決し活動中

一萬圓見舞

釜石鑛山で町へ

(釜石電話)釜石鑛山會社では七日釜石町に對し現金一萬圓を見舞金として贈つた尚牧田會長以下同社の本社員六名は合計一千六十圓を同町に寄贈した

野菜類發送

盛岡市農會で

罹災沿岸各地には諸方面より猛烈なる同情起り陸續として衣類食料品等慰問物資が供給されてゐるが副食物たる野菜類が大欠乏を遂げてゐるので市農會では各農家より寄贈を受け八日第一回の發送をするが非常に喜ばれるだらう

富國徴兵保險寄附

富國徴兵保險會社では今回の三陸震災に對し之が救恤資金とし金二千圓を縣を通して罹災地に寄附したが尚郡下各地駐在社員一同も慰問金を蒐め金一封を本社を通じて寄附を申出でた

主なる死亡者

七日午前六時縣警察部に達した報告による官公吏其他有力者小學兒童死亡者中主なる者左の如し

▲盛署下　綾里村收入役澤田芳次郎、越喜來小學訓導及川利三郎

▲久慈署下　土木技手渡邊正太郎、種市小學訓導小原宮太郎、同田村義郎、小學兒童一二名、宇部小學兒童一名

▲岩泉署下　山林技手菊池清七、小本訓導栗谷川アサ、兒童二三名、田ノ畑村長山田喜代八、同兒童一六名、普代郵便局長大村謙藏、村議藤島與助、村議大村宗三、大村文三、兒童一九名、岩泉町議藤島俊明

▲宮古署下　田老村助役牧野與惣治、田老訓導岡田光雄、同岡村光子、村議前川善平、同鳥居傳兵衛、兒童二〇〇名

▲釜石署下　唐丹村兒童一五名、村議米山福太郎前村長山澤鶴松

釜石の罹災者

判明せる罹災者釜石の分次の通り

▽慈石部落　川畑八十吉　猪又菊松　岩間伊之松　平野萬七　小山甚之助　平野伊勢右衛門　細川戸六　高橋庄之助　平野富次郎　平野竹藏　山內龜助　細川龜太郎　藤原吉松　細川長次郎　藤原富藏　細川與市　藤原德十郎　藤田鶴吉　川畑春松　山內留吉　藤原寅兵衛　西原富次郎　久保德太郎　川畑百太郎　井當圓之助　豐島豐三郎　平野欠松　山崎伊勢松　山崎宇八郎　平野丑松　平野德松　太田末松　平川畑榮松　岩間三之助　平野松太郎　猪又清之丞　平野熊太郎　菊池長治　平野善太郎　岩間萬作　平松富次郎　前川福太郎　木下卯之松　平野卯之松　西原嚢一　佐藤松平　井當德太郎　西原岩間丑太郎　岩間松右衛門　平野崎馬之助　細川伊之松　川畑寅之吾　助川畑留松　平野孫要倉治　平野小三郎　岩間松太郎　山崎助川畑長次郎　木下德次郎　山崎松之丞　川畑吾治　川畑留之介　吾妻淸　久之助　川畑丑之助　佐々木平野八郎　岩間勘左右衛門　川畑晋治　佐々木龜藏　衛門　岩井晋治　藤原萬之丞　神林惠太郎　木平

▽平田部落　川向善兵衛　岡保又藏　久保長次郎　久保福松　赤崎茂太郎　久保萬之久　助　久保福松　佐々木名原太郎　浅田市太郎　石田福松　萬之助　久保勇太郎　石田德太郎　佐々木松下　後藤今朝治　佐々木右衛門　藤忠衛門　孫七　松下要右衛門　猪又重次　非住家　佐々木末松　共同製米所　郎

▽白濱部落　佐々木之丞　佐々木七之助　本間良治　水戸閏藏　佐々木平之助　水戸留助　佐々木義太郎　閏賀　健藏　中村與惣治　前川富作　佐々木民藏　佐々木長命　佐々木龜五郎

罹災救援に活動の在郷軍人動員一萬

應急の活躍に引き續いて

復興事業にも助力

災害突發以來各機關の總動員的活動に依り沿岸罹災民一同は不幸中にも涙を流して同胞愛に嬉し泣きをしてゐるが縣當局と言ひ軍隊と言ひ大体に於て高級の統制指揮に當つて居り罹災民一人一人について配給救護の直接任務にあたる者はその殆んとが在郷軍人、青訓、青年團等であり特に罹災民の感謝を受けてゐるが此の方面の指揮統制は盛岡聯隊區司令部これに當り國崎司令官以下殆んど不休の活動を續けたものである震災發生するやとりあへず主要市町村分會に對し非常指令を發し各市町村救恤事業の主体となつて活動する一方罹災地を五區に分け學校配屬將校及び司令部將校を以て指揮に任じ第一線後方兵站線共密接な連絡統制を以て迅速遠大な救恤が行はれた

この活動により第三日目の五日までに衣類二萬九千三百五十八點、寝具類九百八十五點を蒐集配給を完了せしめたが而

▲第一區　山田中尉(久慈)以下一七〇五名

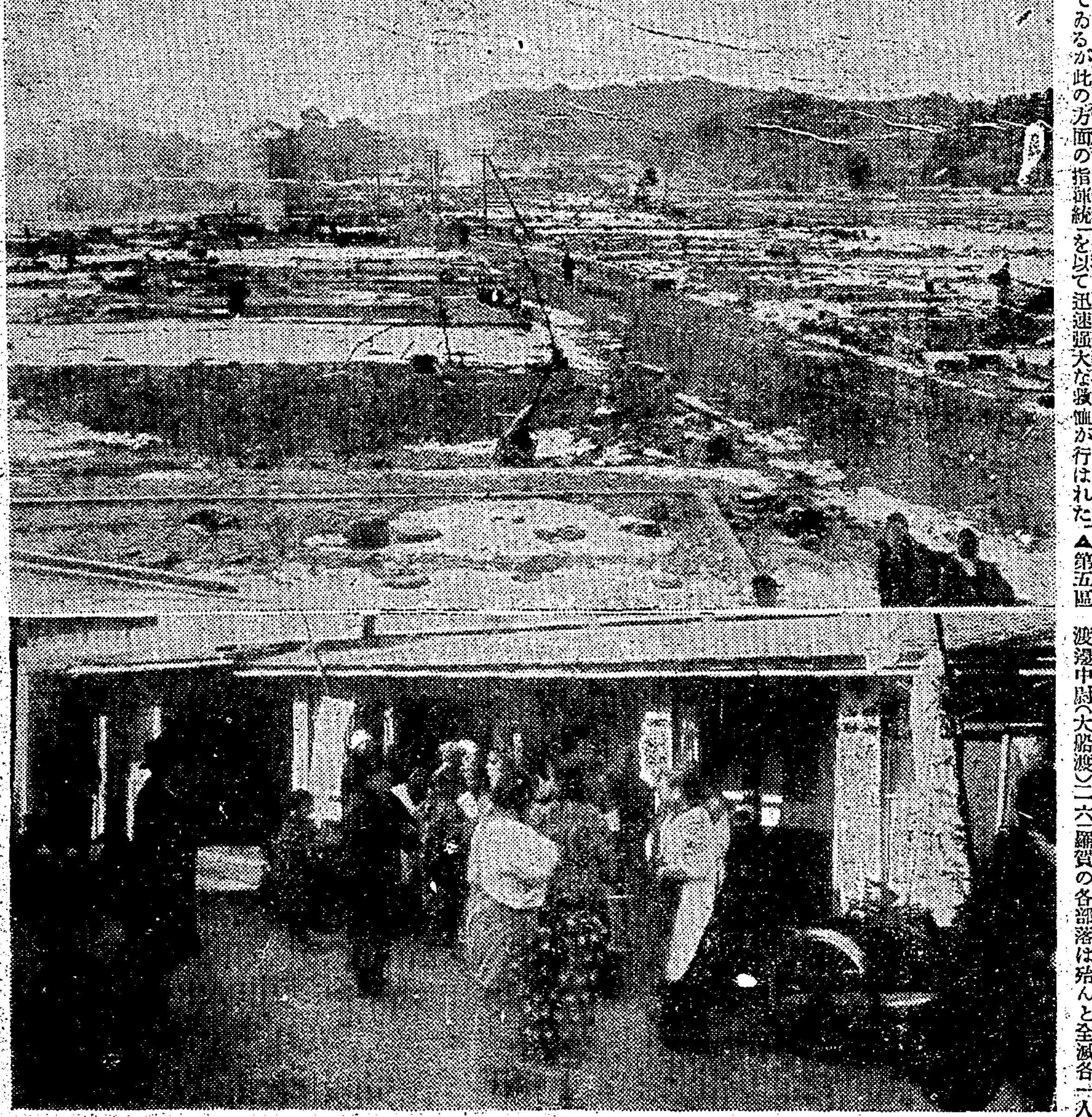
▲第二區　佐々木屬(岩泉)八〇五名

▲第三區　齋藤中佐(宮古)一九六〇名

▲第四區　鈴木大尉一九六八名

▲第五區　渡邊中尉(大船渡)二六三一名

合計實に九千六十九名の會員が第一線に於ける配給・救護、連絡、警備、土木工事等直接勞働並びに後方兵站事務に活動してゐる尚この活動は應急非常時の活躍に引續き今後の復興諸般の事業にも緊密並びに協聯の指令に基き奉仕的活動が續行される筈である



慘狀山田から

(上)一面の荒野と化した境田川向の全景左方に山田灣(下)盛岡工兵隊赤十字支部盛岡市城南青年團等が慰問品の配給救援に懸命の活動を續けてゐるがために配給は順調に行はれてゐる(中村特派員撮影)

田老小本方面配給不能

交通不便に災されて

缺食の狀態

衛戍司令部より小本方面へ派遣の俵大尉は田老村方面の視察配給を完了六日午後八時歸還報告によれば俵大尉、千葉中尉の救護隊は四日午前二時小本到着直ちに救恤品の配給を開始同地は戸數百八十戸の內八十戸流失、島ノ越、平井賀羅賀の各部落は殆んど全滅各一人米一升五合其他の割合にて罹災民に配給、平井賀は近年戸數集まつた部落にて約六十一戸あつたのが三戸を殘して殆んと全部が流失した、田ノ畑は岩泉より約六里半で全く交通途絶し赤十字の看護婦の如きは藥箱行李を脊負つて徒歩で山又山を越えて涙ぐましい活躍をした、尚小本には驅逐艦入港したが小舟なく機櫓なく遂に配給品の陸揚げが出來ずにしまつた、出征軍人家族罹災は田ノ畑に一戸普代に五戸あり飛行第六聯隊入隊の太田三郎の家庭は兄英太郎弟與平を殘し八名死亡した同地方の配給はあまり圓滑ならず特に田老の連絡惡く五日の晝食の如きは罹災民全部食した者がないと言ふ悲慘な狀況であつた

宮古の死亡二

宮古町に於ける罹災者の內生存六百一名內二名重傷、死亡は二、重傷二出動兵士の罹災家庭は二、流失三、浸水一三四戸に達した

バラック未だ一軒も立たず

夜具五百人分以上も不足

その後釜石の狀態

(釜石電話)被害激甚の釜石町は災害五日目に至つても漸く只越場所前の燒け跡の一部が片附けられたのみで東前方面の倒壞家屋は依然として道路に横たはり交通を杜絶して居る、海岸方面も倒壞家屋と打ち上げられた船で交通遮斷され辛うじて人間が通行する程度で一部を殘す外車馬の通行不可能である隨つて未だバラック小屋一軒も建たず殆んで復舊には手がついて居ない食糧は縣救護班其他各地からの同情と活躍で一渡り行き屆いたが夜具は五百人分以上も行き渡らず罹災者達は嚴寒になやまされて居る

キング四月號
百號記念で大奮發!
六七圓もする五大附錄がついて僅に六十錢とは法外の安さだと到る處大評判!! 誰方もぜとお早く!!

漸く食糧にありつく

唐丹方面交通復舊

(釜石電話)釜石署下で最も損害甚だしい氣仙郡唐丹村は津波直後より陸路とも交通全く杜絶し水路のみなので食糧が思ふ樣に配給されず生殘つた罹災民は飢と寒さにふるへて居たが六日驅逐艦『電』が入港して漸く食糧にありついた尚同日からは發動機船も運航され七日から釜石町の道路も開通した和賀郡小山田村消防組員五十餘名は組頭菊池孝一郎氏に引率され六日から跡片附をやるなど罹災民はこゝに漸く人心地がついた譯である

火保代理店と町長協議

(釜石電話)地震に依る火災は直接間接を問はず火災保險の保險金は支拂はずと約款にあるが今度の地震に依り火災を起した釜石町の大半の家は火災保險に加入してゐるが約款を楯に保險金を支拂はれなければ非常な打擊で而も復興に多大の支障を來し加入者は勿論一般町民間に由々しき問題で騒がれてゐる、これに就て小野寺町長は町內の火災保險代理店を七日午後一時から町役場に集め協議する筈である

衛戍司令部縣から引揚

災害勃發と同時に縣廳に臨時移轉した衛戍司令部は七日午前中に旅團司令部に復歸引續き縣と協力事務を續行する

谷、丹羽兩氏氣仙方面へ

(釜石電話)陸軍大臣代理谷少將並びに丹羽社會局長官一行は六日午後六時釜石町に來町鈴子旅館に一泊の上七日午前九時海路氣仙郡方面の罹災地に向つたが出發に先立つて谷少將語る

五日夜宮古に到着直ちに田老に向つたが全滅と言つてもよい位の被害で村長は生殘つたが助役以下多數の吏員は慘死し未だ跡片附も出來ず、あつちこつちに屍骸がごろ〱して居た、然し日赤、在郷軍人、青年團がよく活動して救護に努めて居た、それより宮古に引返し田野畑、吉里々々、安渡を視察して來たが何處も慘憺たる事は想像以上である、罹災各地を視察の上、一應盛岡に行き縣當局と打合せの上今後の救護方法を講じ樣と思つて居る罹災した事は甚だ氣の毒であるこれを試金石として更生に努力すべきである

×

丹羽長官は前任地であるだけに感慨無量の面持にて語る

今迄調査した所では田老の被害は百パーセントであるが損害の大きいのは釜石町の樣である罹災地全部を視察の上は縣廳に戻つて打合せの上、歸京する考へであるが政府としても救護の徹底を期する樣善處する考へである

海相代理河瀬大佐けふ來釜

(釜石電話)海軍大臣代理海軍大佐河瀬四郎氏並に横須賀鎮守府司令長官代理海軍中佐平塚四郎兩氏は七日午前十時釜石町に來町町役場警察署を訪問し親しく慰勞する所あり宮古に向つた

社大中央執行委員高橋氏來釜

(釜石電話)社會大衆黨では全國的に三陸沿岸罹災地の救護運動を起す事になり中央執行委員高橋清人氏は六日夕刻釜石町に來町

釜石海陸少年團電報配達

(釜石電話)釜石海陸少年團は災害直後の跡片附に當り六日から約五十名の團員が晝夜交代で甲斐々々しくも電報配達に當つて居る

九戸出征軍人家族慰問金第一回配給

(釜石電話)九戸郡の出征軍人家族中今回罹災を見たものは五十九戸であるが盛岡聯隊區司令部より慰問金二百圓を醵出したので郡聯司令部では罹災と生活の實狀に應じ六日其の第一回の配給を爲した

流燒失重要建築物

六日午後十時現在

六日午後十時現在重要建築物流燒失は村役場二、郵便局六、駐在所三、木炭檢査所三、鐵道建設事務所一、築港工營所三、土木管區一、財務出張所一、信用組合一、漁業組合七、銀行支店二、分教場一、神社一、劇場五計三七に達してゐるが主なる建築物左の如し

▲盛署下　末崎郵便局、綾里同上、越喜來村役場、泊濱郵便局、綾里村役場、越喜來木炭檢査所、大船渡駐在所、末崎駐在所、大船渡建設詰所

▲久慈署下　久慈湊工營所、種市村八木築港工營所、種市郵便取扱事務所、八戸銀行支店、種市消防第一部

▲岩泉署下　小本木炭檢査所、小本村信用組合、小本漁業組合、田ノ畑郵便局、田ノ畑木炭檢査所

▲宮古署下　田老郵便局、田老駐在所、田老漁業組合

▲釜石署下　財務出張所、釜石漁業組合、土木管區、尾崎神社、殖銀支店、劇場、富士館、同樂館、大槌町吉濱漁業組合、鵜住居村兩石分教場、唐丹漁業組合、大槌漁業組合、大槌登記所、箱崎漁業組合、鮭鱒人工孵化場

今朝は今年中一等の寒さ

地震は漸次收まる

心配はいらぬ

零下十七度

七日の朝の寒さは今冬の最高のもので福井測候所長を訪ねると語る

今朝の溫度は零下十七度一分で平年に比べると十度低いのです今年一等の寒さです罹災者にとつて誠にお氣の毒でなりませんそれにつけても之に對する、各位の同情を望んでやみません今晩もこの寒さを持續するかと思ひます次に余震ですが人体に感ずるものが三日十五回、四日十二回、五日七回、六日は殆んどないといつた程度で地震學上から申せば漸次納まりつゝあつて憂ひがありません大震の後には後始末として余震が必ずある事になつて居り而もある方が心配がないのです若し余震がなければ不安定のまゝ殘つて居るといふ事になります

本田技師來盛

中央氣象臺の本田技師は四日以來釜石より東海岸視察中の處七日午後三時來盛する

高松の池氷四十センチ

盛岡高等農林學校スキー部の調査によると上田高松の池氷結は四十センチに達した尚今朝六時は盛岡氣象最低溫度は零下一九度二分迄降つた

色情狂の萬引女

盛岡署で取調

市內志家小笠原アイ(三六)假名は七日早朝より盛岡署にて取調べ中であるがアイは數年來市內大百貨店をはじめ商店等より呉服反物、下駄、洋品類みやげもの等あらゆるものを萬引し贓品は四行李にもあまる程であるが色情狂らしく處女を某病院で破られて以來淫亂となり夫を取り換へること十八回に及びその間の色話を滔々述べ立てゝ係官を面くらはせてゐるが餘罪多數の見込である

燈火管制に消防動員

來る九日夜盛岡市及び附近に施行の燈火管制につき盛岡署並びに盛岡消防組に於ても警備防火演習を行ふが演習想定並びに區處左の如し

△第一演習　▲想定九日午後七時三十分日詰方面を爆擊せる敵機〇機は直ちに北上し市內全般を爆擊して火の海と化す。南西の風速五米目下盛んに延燒中

▲出動　1仙北町驛(盛岡第一部第二、三、四、八部)2盛岡驛(第五、六、七、十、十一部)

△第二演習　▲想定九時三十分岩手山上空よりの敵〇機は市內重要建築物を爆破し岩手縣廳に火災起り目下延燒猛烈を極む

▲出動　各署

△第三演習　▲想定奧羽山脈方面より空襲の敵〇機は市內銀行會社を爆擊、盛銀、郵便局より火災起る

▲出動　同上

社大黨幹部公判第三日

社大黨横田忠夫外五名(內池田譲造は欠席)の暴力行爲被告事件公判第三日は盛岡地方裁判所中谷裁判長係り岡沼檢事、須貝書記立會辯護士は河上元代議士、吉田豐造氏列して七日午前十時半から開廷河上辯護士の辯論に入つた

花卷中學武道大會

花卷中學校では來る二十二日午前九時から第二回組合町村武道大會を花卷武德殿で開催する事になつた

今晩の天氣

北西の風一時小雪ちらつきますが大体天氣宜しく寒氣が嚴しいです

明日の天氣

北西の風晴れますが午後は曇ります

表日本は晴れ勝

今朝六時の全國天氣概況七七六ミリの高氣壓は遼河流域を覆ひ七七五八ミリの低氣壓は大泊北東海上にあり七六〇ミリのものは銚子の南東沖合にあり七七四ミリのものは黄海中部にあります天氣は朝鮮では快晴表日本は晴れ勝ち裏日本は雪の所多く琉球臺灣は曇り所々雨となつて居ります

滿洲氣象

(今朝六時盛岡測候所無電受信)

新京	靜穩	快晴	零下二三
開原	南疾風	同	同二五
奉天	南軟風	同	同二三
營口	靜穩	同	同二〇
鞍山	南軟風	同	同一六
大連	東軟風	同	同一一
旅順	同	同	同一九
新義州	北軟風	同	同八
平壤	靜穩	同	同一五
仁川	北疾風	同	同一一
大泊	北軟風	曇	同二〇
札幌	南軟風	晴	同一三
宮古	西軟風	同	同八
盛岡	靜穩	快晴	同一七

盛岡氣象

今朝の最低溫度攝氏零下一七度一平年より一〇度一低い

昨日中の最高溫度攝氏零下二度六平年より二度八低い

日の出日の入

日の出	午前五時五七分
日の入	午後五時三四分
晝間	一一時三七分
夜間	一二時二三分

滿潮干潮

滿潮	午前三時四五分、午後〇時〇五分
干潮	午前八時〇〇分、午後八時〇五分

一九〇〇

東京株式市場

休會

短期清算

休會

東京期米市場

△米況　本日は底地安に活氣なく綿糸筋大阪筋深川筋の買物あり四錢安の三圓七十四錢と小安く寄附き五節四十一錢と叩かれ四錢と戻したが期近安勞々三十四錢と低落して安値引け

大阪期米市場

	常	中	先
一節	[illegible]	[illegible]	[illegible]
二節	[illegible]	[illegible]	[illegible]
三節	[illegible]	[illegible]	[illegible]
四節	[illegible]	[illegible]	[illegible]
五節	[illegible]	[illegible]	[illegible]
六節	[illegible]	[illegible]	[illegible]
七節	[illegible]	[illegible]	[illegible]
八節	[illegible]	[illegible]	[illegible]

東京綿糸市場

	先		先
一節	[illegible]	六節	[illegible]
二節	[illegible]	七節	[illegible]
三節	[illegible]	八節	[illegible]
四節	[illegible]	九節	[illegible]
五節	[illegible]	十節	[illegible]

東京正米市場

	一節	四節
三月限	一七一八	一六九八
四月限	一七一〇	一六九五
五月限	一七〇〇	一六九一
六月限	一七〇四	一六八九
七月限	一七〇一	一六九〇
八月限	一七〇九	一六八七
九月限	一七〇〇	一六六二

▲深川　値合　二、三十錢安　標準　三十錢下げ　內地米　上米 [illegible]　中米 [illegible]　下米 [illegible]　平均 [illegible]　出來高 [illegible]　藏入 [illegible]　藏出 [illegible]　在庫米 [illegible]

▲神田川　値合　二、三十錢安　標準　三十錢下げ　內地米　上米 [illegible]　中米 [illegible]　下米 [illegible]　平均 [illegible]　出來高 [illegible]　回着米 [illegible]

日銀帳尻(繰越)△印減

發行	[illegible]	△[illegible]
準備	[illegible]	[illegible]
預金	[illegible]	[illegible]
貸出	[illegible]	[illegible]

東京手形交換高

交換高	[illegible]
交換尻	[illegible]

國債長期(單位錢)

	寄	引
甲第三五	[illegible]	[illegible]
一回四	[illegible]	[illegible]
二回四	[illegible]	[illegible]
二二年五	[illegible]	[illegible]
二八年五	[illegible]	[illegible]
佛貨四	[illegible]	[illegible]

この紙面の著作権は岩手日報社が保持しています。無断転載、複製及び配布は禁止します。